

1月10日 (火)

驚き，非常に恐れた

聖書朗読 マタイ 24:37～41

だから、目をさましていなさい。あなたがたは、自分の主がいつ来られるか、知らないからです。 マタイ 24:42

小学生の頃、私たちの家族はテキサス州シュフィールドの西へ26キロほど離れた所にあるアリソンの大牧場に住んでいました。その地域で唯一の家族だったので、平和と静けさを十分に楽しみました。

アリソンの大牧場で晴れた日に起こった出来事を鮮明に覚えています。私は外にいたので、春か夏だったと思います。大きな爆発音を聞いたことを覚えています。聞いた時は震え上がりました。色々と不安が募りました。突然の大きな音は至る所から聞こえたような気がしたのです。「この世の終わりが来た！」と思うと同時に、まだ自分自身がこの世の終わりに対して準備が出来ていないことに気が付き「神様、もう少し待って！」とも思いました。

もしも、もっと聖書のことをよく知っていたのなら、神様が戻られた時の音は飛行機が音速で飛ぶ時のような音ではないと気がついたでしょう。しかし、御言葉によると、御国の到来の際、多くの人々はまだ準備が出来ておらず、小学生の頃の私のように驚くのです。『人の子が来るのは、ちょうど、ノアの日のようだからです。』(マタイ 24:37) とあります。いつも御国に対して、準備万端で居られるようにしましょう。

日々御国が近いことに気がつき、靈的にも準備が出来ていて、十分な祈りを捧げているのでしょうか？ 今一度、自分自身を振り返りましょう。

讃美歌 448

祈り 神よ。あなたが戻られる時、私たちが注意深くいられるようにして下さい。あなたが戻られる際、喜びをもってあなたにご挨拶することができますように。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

クリス・フリゼール

テキサス州 グランバリー

1月11日 (水)

いつも通り

聖書朗読 マタイ 26:36～46

誘惑に陥らないように、目をさまして、祈っていなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。 マタイ 26:41

『それからイエスは出て、いつものようにオリブ山へ行かれ、弟子たちも従った。』(ルカ 22:39) とあるように、イエス様は(少なくとも形としては)「いつものように」祈りにお出掛けになりました。イエス様はよく夜には郊外へ行かれ、弟子たちとは離れ、一人で神様との祈りの時を持たれました。しかしながら、この夜はいつもと違うと知りながら、小道を歩いておられました。

神様の御子であられるイエス様は、神様の御心を成し遂げる意思を持ちつつ、(また同時に)誘惑があった時に負けそうになる弱さをもご存知でした。過去の経験から、イエス様は神様が下さる強さだけがご自身を強くすることをご存知でした。ですので、イエス様は熱心に祈りを捧げられました。それはイエス様にとっていつも通りの行いでした。

その一方で、ペテロ、ヤコブ、ヨハネたちは、イエス様と過ごした最後の夜、眠気にとともに簡単に負けてしまいました。後に、イエス様が常日頃から熱心に祈られていたことを思い出し、自分たちは祈ることが不十分だったことに気がつきました。

あなたの通常の日々の生活は、イエス様がなさったような、神様からの強さと御心を求めるような祈りを大切にしている生活ですか？ イエス様を良いお手本としましょう。神様は一番優先順位が高い所におられることを常に覚えましょう。

讃美歌 310

祈り 父よ。弱くなってしまう時も、強めて下さい。イエス様という素晴らしい善きお手本を示して下さいありがとうございます。あなたの慈愛により私は強くされることができます。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

匿名

テネシー州 ナッシュビル

1月12日 (木)

十字架の意味

聖書朗読 マルコ 15:29~41

人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。

マルコ 10:45

マルコの十字架上でのイエス様についての説明は、釘で打たれて空いた穴、イエス様が経験された痛み、呼吸の苦しさ、もしくは頭の周りを飛んでいた虫についてなどではありませんでした。十字架上での肉体的な苦悩については、他の人々がじっくり考えるよう委ねています。

代わりに、十字架の周りにいた人々の反応について触れています。頭を振りながらイエスをののしる人々 (マルコ 15:29)、イエスを嘲る人々 (同 31 節) がおり、さらに『また、イエスといっしょに十字架につけられた者たちもイエスをののしった』(同 32 節) と書かれています。

イエス様は痛みについて、特に発言はされていません。また、ののしりの言葉にも耐えられましたが、『わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。』(マルコ 15:34) と叫ばれています。

マルコの福音書は、イエス様を「神様に仕えるお方」として私たちに示そうとしています。イエス様は、ご自身の人生を他者に仕えるために用いることの重要性を示されました。そして、その究極の行動は、主が十字架に架かれたことです。マルコはイエス様が屈辱にも耐え、私たちの罪のためにイエス様が十字架にかかれたことを書き記しています。

日々の生活の中で見覚えのないことで、責め苦しめられる人々もいるでしょう。そして私たちが忠実であるならば、私たちの信仰のゆえに屈辱を受け、嘲笑われるかもしれません。そんなことがあろうとも、私たちはそれに耐えられます。なぜなら、比較にならないほど大変な思いをされたイエス様がまず苦難に耐えられたからです。イエス様は私たちにとって良いお手本です。

讃美歌 第二編 185

祈り 親愛なる神よ。イエス様に倣う者となれますよう、私たちを導いて下さい。信仰によって生き、人々からの拒絶やののしりに負けない強さを下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ハロルド・シャンク

ウエストバージニア州 ヴィエナ

1月13日 (金)

誰の力のお陰？

聖書朗読 ルカ 4:1-10

御名を知る者はあなたに抛り頼みます。主よ。あなたはあなたを尋ね求める者をお見捨てになりませんでした。 詩篇 9:10

リビングの壁紙を剥がすことを決めました。剥がすための溶剤を購入し、使用説明書にざっと目を通し、その溶剤を壁に塗り、数分放置して、壁紙を剥がし始めました。

3時間後、私はとても疲れ、やる気もなくなりました。ほんのちょっとしか壁紙を剥がせなかったのです。今一度、使用説明書をきちんと読みました。そして、成分の酵素が働き、壁紙を剥がし易くするのに30分かかると気がつきました。私自身は壁紙を剥がすのは得意だと思っていましたが、その自信は砕かれました。私は間違っていました。私は力を持っていなかったのです！

サンヘドリン (当時のユダヤ人の最高議会) は、彼らが力を持っていると思っていました。彼らは国内の宗教に関する権力は全て自分たちにあると思っていたのです。しかし、足の不自由な人の癒しとそのため起こった神への賛美は、サンヘドリンが (主イエスが持つておられるような) 力を持っていないことを明確にしました。悩まされたサンヘドリンはペテロとヨハネに対し『あなたがたは何の権威によって、また、だれの名によってこんなことはしたのか』と尋問しました。(使徒 4:7)。それに対し『ナザレ人イエス・キリストの御名によるのです。』(使徒 4:10) とペテロは力強く答えました。

あなたは誰の力を信じますか？

私たちの弱さに気がつき神に頼る時

神の御霊が神の力を発揮する瞬間になります

————— オズワルド・チェンバース

讃美歌 162

祈り 父よ。自分たちの能力を信じるのは簡単です。しかし、あなたのお力に抛り頼めるよう助けて下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

サリー・J・シャンク

ウエストバージニア州 ヴィエナ

1月14日 (土)

愛という網をおろして人々をお招きになる主

聖書朗読 ルカ 5:1~11

イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」
マタイ 4:19

ルカ5章で、イエス様は人々を教えるためにシモンの舟をお用いになりました。弟子たちは岸边から舟を押し出し、イエス様は舟の上から人々に教えました。さらに、イエス様はシモンに次のように言われました。「シモン、あなたの舟を説教壇として使わせてくれました。この舟を、漁のための舟としてあなたに返します。さあ、深みに漕ぎ出して、網をおろして魚を取りなさい」と。

シモンは、イエス様の（舟からの）素晴らしい説教を聞いたばかりで、いつものシモンであれば、そんな素晴らしい説教をなさるイエス様の仰せなら何でも喜んで従ったことでしょう。しかし、この時ばかりは（漁で）クタクタに疲れていました。もう家へ帰りたいかったです。しかしそれでも、主に従いました。『シモンが答えて言った。「先生。私たちは、夜通し働きましたが、何一つとれませんでした。でもおことばどおり、網をおろしてみましよう。」そして、そのとおりにすると、たくさんの魚が入り、網は破れそうになった。』（ルカ 5:5~6）。こうしてシモンは、湖や魚を造られた創造主を完全に理解したのです。イエス様は、舟から人々に教えられた後も、引き続きシモンを教えるために舟をお用いになったのです。すなわち、主は単に舟一杯の魚をお獲りになっただけでなく、世界を変える「人々をとる漁師」である4人の弟子も（シモンの舟を用いて）お召しになったのです。

キリストが深みに漕ぎ出しなさいと言われたら、シモンが網を下ろしたように、私たちもそうしましょう。神様の素晴らしいご計画があるからです。

讃美歌 第二編 83

祈り 親愛なる父よ。私たちは十二使徒ではありませんが、あなたに従う弟子たちです。あなたに呼び掛けられた時、気がつけるようお助け下さい。あなたから頂いた恩恵により、あなたの愛を伝えられる人々になれますように。イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

カーティス・K・シェルブーネ
テキサス州 ムレシュー

1月15日 (日)

どう罪人と接するか

聖書朗読 ルカ 7:36~50

そして女に、「あなたの罪は赦されています」と言われた。
ルカ 7:48

この例え話では二人の債務者が登場します。この話を通して、イエス様は私たち全員が罪人だと言われました。しかし、イエス様は皆に優しく、敬意を持って接しました。主がそのように私たちに接して下さるのなら、キリストと共に葬られた（すなわちキリストによって新しくされた）私たちは、他者に対しどのように接するべきでしょうか。

参考になる例を挙げてみましょう。経済的困難な状況にある人々に一時的な滞在場所を提供したり食料を提供したりしているクリスチャンたちが大勢います。また、若者たちに仕事のスキル（技術）を身に付けるための訓練の場を提供しているクリスチャンたちもいます。また、福音をまだ聞いたことがない人々に福音を伝える仕事を熱心に行っているクリスチャンたちもいます。福音を宣べ伝えつつ、食べ物、衣服、医療など必要とされているものを提供します。リカバリープログラム（困難な状況から立ち直るためのクラス）はたくさんの教会で提供されています。毎週、薬物問題、アルコール問題、性倫理に関する問題、心の傷や他の問題を抱えた人々がテーマごとにミーティングをし、食事や聖書の勉強会をします。多くの人々がこのプログラムにより、孤独感や自分を苦しめている罪から救われています。これらの奉仕に感謝して、救いを求めている人々や奉仕者のために祈りましょう。

私たちは皆、私たち自身も罪人であると意識すれば、何かについて悩んでいる人に声を掛け易くなるように思います。彼らと一緒にコーヒーを飲みながら、神様からの大きな恵みについて、話し合うのも良いかもしれません。

イエス様は、私たちの周りに霊的な助けを必要としている人がいるなら、私たちがその人々の必要に気付くよう望んでおられます。それと同時に、私たちは自分たち自身の弱さも理解していなければなりません。

讃美歌 332

祈り 父よ。罪人である私をお助け下さい。そんな私も、周りに助けを必要としている人々がいることに気づき、彼らを助けられるようお導きください。イエス様について知る機会を与えて下さったことに感謝します。イエス様のように他人に接することができますように。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

スタフォード・ノース
オクラホマ州 オクラホマシティ